

# 草津市教育委員会会議録

令和2年1月定例会

(1月29日開催)

草津市教育委員会

出席委員	教育長	川那邊 正
	委員	檀原 泉
	委員	中西長雄
	委員	稲垣明美
	委員	松嶋徹也

議事参与	教育部長	居川哲雄
	教育部理事（学校教育担当）	畑 真子
	教育部副部長（総括）	山本智加江
	教育部副部長（学校教育担当）兼 学校政策推進課長	江竜真司
	教育総務課長	田中 歩
	生涯学習課長	相井義博
	スポーツ保健課長	織田泰行
	スポーツ大会推進室長	藤崎 篤
	歴史文化財課長	岩間一水
	草津宿街道交流館長	八杉 淳
	図書館長	武村 彰
	学校教育課参事	作田まさ代
	児童生徒支援課長	成田陽子

事務局	教育総務課総務係長	門脇弦太
-----	-----------	------

開会 午後 3時00分

川那邊教育長

それでは、ただいまから草津市教育委員会1月定例会を開会いたします。  
なお、本日は、中西委員から欠席届が出ておりますことを御報告します。  
まず、新たな教育委員として松嶋徹也さんをお迎えすることになりました。  
松嶋委員から自己紹介をお願いします。

松嶋委員

御紹介に預かりました松嶋徹也と申します。よろしくお願いいたします。  
昨年の12月25日に辞令をいただきまして、教育委員に任命いただきました。今までちょっと簡単に経緯を説明しますと、これまでものづくりを中心にソフト面とハード面と両方とも経験を積んできまして、今現在はスマートフォン、タブレット端末等のエンドユーザーさんの技術的なサポートを行っています。あと、小学生と、幼稚園の年小の子どもを抱えていまして、仕事は自宅で行いながら家のこととかも一緒に手伝いながら過ごしているところです。今まで教育に関わる仕事というのが経験がないものになりますので、皆さんの知識等サポートいただく機会が多いと思いますので、よろしくお願いいたします。  
一保護者として、あとICT端末、ICT教育に必要不可欠なそういった機器の専門家として、微力ながら何かお力添えができたらと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

川那邊教育長

ありがとうございます。

—————日程第1—————

川那邊教育長

それでは、議事に入りたいと思います。日程第1、「会期の決定について」であります。本日1日限りといいたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

各委員

— 異議なし —

川那邊教育長

異議がないようですので、1月定例会は、本日1日限りといたします。

—————日程第2—————

川那邊教育長

次に、日程第2、「12月定例会会議録の承認について」であります。あ

らかじめ事務局から配付され、熟読されていると思います。また、委員の交代がありましたことから、前委員には事前に御確認をいただいております。御異議ございませんか。

各委員

— 異議なし —

川那邊教育長

異議がないようですので、12月定例会会議録は、承認されたものと認めます。

—————日程第3—————

川那邊教育長

それでは、日程第3、「教育長報告」に移ります。

今日は新年になって初めての教育委員会でございます。今回は、任期満了となられた周防委員に代わり、12月25日付で就任いただきました松嶋徹也委員を迎えての初めての委員会です。松嶋委員におかれましては、保護者の立場から、またICTにも非常に長けておられ、その立場からの専門的な御意見もいただけるものと楽しみにしております。今年も委員の皆さんとともに「子どもが輝く教育のまち、出会いと学びのまち・くさつ」の実現に取り組みたいと思います。

さて、今回の仕事始めの訓示についてです。今年は、訓示を紙面で配布しました。内容は、スペンサー・ジョンソン「チーズはどこへ消えた」の書籍から、社会の変化を見据え、新たに対応することの大切さを示しました。世界的企業であるアップルやメルセデスベンツなどの社員教育として使われた本でも有名です。この物語には2匹のネズミと2人の小人が登場します。ネズミは、チーズがなくなっているという変化に気づき、新たなチーズを見つけるという行動に出ます。しかし、小人たちは、ちゅうちょするばかりで動こうとはしません。人間は本来、変化を好まない動物のようです。しかし一方で、「変わらなければならない」「変わらなければついていけない」とも思っています。人生100年時代、ソサエティ5.0といわれるこれからの社会。教育委員会事務局においても、改革志向で、挑戦し続ける職員であってほしい。そんな教育行政や学校経営への期待を伝えました。

次に、1月13日、クリアホールで開催した「草津市成人の日記念式典20歳のつどい」についてです。委員の皆様には、御出席、ありがとうございます。本年、草津市では1,562人の方が成人され、式典には912名の方が参加されました。参加率は58.4%でした。企画や準備等には、実行委員会委員長の岸田日菜さんを初め、32名の委員さんが、8月末からの5回の委員

会とグループ別での集まりを通して取り組まれました。若者らしい発想で、例えば、新しい時代「令和」の「令」をゼロの「零」と、また、「令和」の「和」をストーリーの「話」とあらし、あわせて「零話」「ゼロ」と「話」、「零話」というキャッチコピーをつくられ、感心いたしました。ゼロから新しく始まる未来へのストーリーを若者と共有したいと思います。また、式典も、大変厳粛な雰囲気の中で行われ、将来を担う若者への大きな期待を感じました。

次に、1月16日、文部科学省が主催する「学校ICT活用フォーラム」が東京と京都で開催されたことについてです。昨年12月に政府が発表した、全国の小中学校の全ての児童生徒が「一人1台」の状況でPCやタブレット型端末を使える環境を整備するとの政策内容を受けてのものです。このフォーラムの参加対象は、自治体の市長や教育長、教育担当部署の職員で、二つの会場を合わせると1,400名を超える参加ということでした。その中で、京都会場の方ですが、草津市教育委員会に1時間の講演の機会が与えられました。草津では教育情報化推進計画を踏まえ、既にタブレット型端末を4,820台、液晶型電子黒板を433台など、ICT機器や環境の整備を計画的に進めています。また、昨年度には日本ICT教育アワードで文部科学大臣表彰を受賞するなど、市教育委員会の環境整備や学校でのICT活用の取り組みについて評価をいただいています。そのような先進的な取り組みと実績が評価されたから選ばれたのだと思っています。

講演では、私が、「ICT活用で元気な学校をつくる草津市の戦略9（ナイン）」と題し、ICT機器の導入と活用への教育長としてのリーダーシップやマネジメントについて、また、学校政策推進課の西村専門員は、草津のプログラミング教育の開発と実践について話をしました。

さらに、京都会場からは貸し切りのバスが出て、約50名の方が草津小学校を訪問されました。学校では、2年、4年、5年においてタブレットや電子黒板を活用した「草津型アクティブ・ラーニング」による授業やドローン、Peerを活用したプログラミング学習など、5授業を提供しました。草津の取り組みを全国に発信するよい機会をいただけたと感謝しています。

また、同じ16日、文部科学省・滋賀県教育委員会委託の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の中間発表を行いました。推進校である南笠東小学校、新堂中学校では、電子黒板やタブレット等の活用を含む授業がそれぞれ午前中に公開されました。午後の全体会には、参加者全員がアミカホールに集合し、両校の発表と草津市教育委員会の取り組み発表を聞いていただきました。草津市の取り組みは、これまでから県内市町へのモデルとしての評価をいただいております。文部科学省の浅見教科調査官からは、「市全体でこのような体制を継続することはなかなかできない。すばらしい。」と、推進体制や研究の

成果物などを見て、高い評価をいただきました。

ほかにも、12日に立命館大学びわこ・くさつキャンパスで第65回草津市駅伝競走大会、第23回草津市スポーツ少年団交流駅伝競走大会を開催しました。オリンピックイヤーである今年、草津市スポーツ推進計画の基本理念「ALLくさつでつくる『みんながスポーツ大好きなまちくさつ』」に向けて、着実な取り組みを重ねたいと思っています。

17日には「草津のサンヤレ踊り」が「近江湖南のサンヤレ踊り」として国の重要無形民俗文化財に指定されることが決定しました。保存と活用についても一層進めていかなければなりません。

25日には、草津宿本陣で「本陣四季彩々 冬の陣・年のはじめ」の一環として、競技かるたの実演と小学生向けのかるた体験会が開催され、参加者はかるたを通して、伝統文化に触れることができました。

また、26日には、第66回文化財消防総合訓練を青地町の西方寺で実施しました。今後も、住民と地域機関等が連携し、火災やその他の災害から文化財を守り、後世へ継承していく努力を続けたいと思っています。

以上で私からの報告は終わります。

それでは、委員の皆様の方から、1月にあった行事や教育全般に関する事項で、特に御意見、御感想などがございましたらお願いいたします。

檀原委員

それでは、檀原から報告させていただきます。

12月26日に、第1回の教え方改革セミナーというのが市役所で行われまして、國學院大学の田村学教授にお話を聞くことができました。テーマは「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」ということで、先生自身がいろいろな国内の学校で実践されているものを報告いただきながら、そのポイントとなる所を非常にわかりやすく、また非常に高度なお話をいただけて、非常に参考になりました。学習する子どもの視点に立った授業づくりということで、やはり先生方本意ではなく、子どもたちの視点に立つというような重要性になるものも話されておりました。特に幾つかの学校を紹介されていた中で、本市からも近い福井の明倫中学校や大阪の伊丹北中学校なども名前を挙げて報告されておりましたので、機会があればぜひ何らかの形で学ばせていただければいいなと思いました。

それから、年明けまして1月10日でございますが、常盤小学校の方で行われましたスペシャル授業の草津市出身で、また今も草津に住んでおられる京都大学大学院の山敷先生のお話を小学校6年生とともに聞かせていただきました。先生のお話は非常に中身は濃いのですが、その中にも非常に親しみやすいしゃべり方をされ、また太陽系の惑星がそれぞれ一つ一つ個性的で、いろい

るな役割を持ち、地球にとっても大きな影響力のあるようなことがあるという話もされたことには、非常に私自身も子どもたち以上に關心を持ってしまったのですが、また生命が存在する可能性のある惑星というのが宇宙の中には幾つもあるという中で、このお話を聞くつい数日前に100光年ほど離れたところにそれらしきものがはっきり認識されたというニュースもあって、非常に興味深い話でしたが、子どもたちの中にはやはりこういうものの好き嫌いもあるようで、關心を示す子どもとそうでない子もいましたが、その關心を示す子の中には非常にメモを詳細にとるような、とっても食いつきのいい子もいたので、将来が楽しみやなということも思いながら、いい話を聞かせていただけたなと思いました。

続きまして、1月13日、先ほど教育長のお話にもありましたが、20歳のつどいにも参加させていただきました。今年の実行委員長は女性で、非常に立派な挨拶もされました。また、実行委員の方々が映像を通して桃太郎の鬼退治ということでたび丸くんが出てきたのですが、いろいろなちょっとこじつけのようなどころもありながらも、映像とともに最終的に何を言いたかったのかというと、やはり自分が20歳になるまでにいろいろな人にきつい教え方もされたりいろいろ体験する中に、にっこりすることばかりじゃなかったけど、実は鬼じゃなくてとても温かい人たちやった。特に両親への感謝やなということをお話しているなということが伝わってきて、非常に内容が温かいものでした。また、その発想も映像を通してするということのようなことを捉えてやってくれたことに、本当に頼もしさを感じました。

同日、これはまた別の会場、アマカホールで展示があったのですが、南草津のマンション防災委員会というところのお母さんたちが、大切なものという写真展と講演会をされたのにも参加させていただきました。マンション防災委員会というところかなというふうに思っていたのですが、実は何かその具体的な防災をするというよりも、自分たちの大切なものを守ろうという気持ちが防災につながるんだということと、それとお母さんと子どもたちという、普段は家にいてお父さんが仕事行ったり、また自分自身も働きに行っているようなときに、守れないようなときに誰かが支え合うコミュニティーこそが防災につながるんだということで、お母さんたちがその写真を通じてみんながそういう気持ちを共有できるような場にされていました。特に驚いたのは、その方たちは150人ぐらいのLINEのコミュニティーをつくっておられて、普段から何か助けてほしいときには、お互いに助け合っているんだという話をされていました。まさにちょっと考えさせられることでした。やはり防災というどうしても何かをしなければならぬ、何かを学ばなければならぬと思いがちですが、こういうことこそ一番ベースになるなと。そこから先

はまたいろいろやっていけばいいなということで、本当に勉強になりました。そして、この活動が近く内閣府のホームページにも紹介されるという話を聞きまして、これはすばらしいことだなと思いました。

続きまして、1月16日、教育長の方が先ほど報告されたように、京都の方でお話いただいたり、また草津小学校の方でも午後から研究会があったのですが、私は午前中は南笠東小学校の道徳教育の研究会に参加させていただきました。3年生の授業で、「言い出せなくて」という教材を使っての話やったのですが、非常に上手に展開されて、最終的に振り返りまで行けるといって、本当にこういう流れでやられるとすばらしいなということを実感できました。特に南笠東小のスタイルをつくっておられるということに感心いたしました。「Let's do a talk (レッツどうとく)」という共通の標語を使って、どの学年でも必ずその自分たちの意見を交流させるという、その時期が来たときはその言葉が合い言葉のようになって、みんなが参加者としてしっかり授業に関わるという工夫をされていたり、また最終的に板書のまとめとして、左端にマグネットでつけられるところに、木の幹と葉っぱを貼って行って、その中にあとで消せるそのホワイトボードマーカーのようなものでこの一番大切なメインテーマを幹に、そして大切なキーワードは葉っぱにして貼っていくというまとめをされていて、振り返るときのやり方としてもスタイルをしっかりと確立されているということに、非常に興味を持ちました。それから、その後に引き続き先生方同士の交流会とか意見発表の交流をされている中でも、非常に鋭い意見を県内の先生が出しておられて、やはり中心発問というものに結びつけていくまでの手順みたいなものを、僕やったらこうするとか、いろいろその自分のイメージをちゃんと話されるような、非常に中身の濃い交流をされていて、本当にすばらしい研究会をされたなと思いました。

同日午後は、私、常盤幼稚園の方の草津の美術研究会の公開保育の方に参加させていただきました。草津市の青少年美術展の審査員をさせていただいている馬場輝代先生と、それからそのお連れ合いであります馬場豊先生が来られておりまして、4歳児はスチレン版画という、スチレンボードという薄い板に鉛筆とかいろいろなものでへこみをつけて、それにインクを塗ってその上に紙を乗せて判をつくるという授業をされていました。それも普通にスチレンというのは四角いんですけど、それを魚の形に切って、そしてそれをいろいろな色を自分たちで色を自由に付けて、そして版を作って、その切ったその紙を、川を模したもののところに並べていくというストーリーまで最終的にやるというような、非常に単に版画をつくるだけではなくて、非常に楽しめると同時に、子どもたち自身がいろいろな工夫をするチャンスを作っておられたので、非常に感心いたしました。また、そのやっている途中にどんどん進化してくる子どもたち



の様子が見られて、そのあとの発表の中でもこういうことはなかなか版画というのは保育園なんかでやるとそこら汚したりとか、いろいろ課題があり、避けがちなものだけれども、やり方を非常に工夫することによって、先生もやりやすくなるし、同時に子どもたちはどんどん成長するということを実地で示してただけなことでした。特に、版を押すときというのは、子どもたちだけではなかなか上手にやるのは難しいと思います。街道交流館でも浮世絵の版画を工夫して何枚かやるためには、ずれないようにという工夫されていますが、こういうボードの上に四角い枠をつくって、その上に魚の形の版を置いて、その四角い大きいボードの内側の四角の線に合わせて紙を乗せれば、上手に版ができるよというような道具をつくっておられて、これが支援だよということを馬場豊先生が後で話をされている様子でした。

また、5歳児の方は、さらにもっと込み入った版画を幾つもの、3種類の版画を同時にやっていくのですが、非常にスムーズにやっていました。そして、そのあと、子どもたちが帰った後、来られていた先生同士で実際に体験してみようというワークショップをやっていました。それで、先生たちはどんどんそれにのめり込んでいって、本当に子どもたちがこれをやるために、自分たちがチャレンジしなければいけないなということとそこで学ばれていて、本当にすてきな研究会になったなと思いました。

それから、1月21日には、七福神めぐりというのを兼ねて、草津の町を歩かせてもらったのですが、街道交流館ではちょうど草津で発掘されたもうここ数年来非常にたくさんのもを発掘していただいて、それをまとめて展示していただいている展示を拝見することができました。大変非常にわかりやすいし、また草津でいろいろな産業遺跡が生まれているということと同時に、それが何らかの時代のこの地域の文化とも関わってきているということイメージさせるような、ともすれば街道というと江戸時代に集中しやすいですけども、そういう古くから草津というところにそういう人たちの営みがあったということと十分感じさせていただけのような展示で、本当にありがたかったです。

それから、最後に、1月26日に、つい先日ですが、第36回草津市部落解放青年集会というのがアミカホールでありまして、そちらの方に出席させていただきました。38名の実行委員の方々が、つなぐというテーマでやっていたのですが、この市内の学校の先生方が大変たくさん参加されているなということとを思いまして、本当に人権の取り組みの中で、非常にこういう自発的な取り組みをされている方々が市内の先生方におられるということに、本当に感銘を受けました。水平社宣言に込められた思い、繰り返される結婚差別、ある懇談会で思いをつなぐという四つのテーマでそれぞれ劇のような形でされました。また、その最後に、人権コンサートで、四つのオリジナル曲を歌ってい

ただいたのですが、そのオリジナル曲一つ一つに解説をしていただいて、またその曲の込められた思いや、こういう思いでみんなで作っていますということで、最後はみんなで歌うような工夫もされて、本当に御苦勞いただいていることに本当に感謝すると同時に、ぜひ部落差別というのが今もまだ残っているということで、悲しい思いもいろいろなところであると思うので、そういうことが一日も早くなくなることを祈りつつ、すばらしい集会に参加させていただいたということを御報告させていただきます。

稲垣委員

私も昨年末、12月26日の草津市教え方改革セミナーに参加させていただきました。講師の先生の軽快な口調での話で展開されていきますので、大変多くのことをおっしゃるのですが、もうメモをとる余裕もないぐらいの展開だったのですけれども、やはり時々隣の方と話し合ってお話してくださいという、あの場面がふっと抜けるというか、私も同じこと考えていたなというのができて、そちらもよかったなと思いました。あつという間の90分間でした。キーワードとなることを「深い学び」と関連づけてお話しいただいたと思います。

「つなぐ」「つながる」「つなげる」ということを構造図で説明いただき、現場の先生方には大変参考になることが多かったと思いました。後半の学校ごとの話し合いにもきっとこれは生かされ、またそれをお土産として各校に持って帰られたのではないかと思います。その中で、授業公開では、何を見る、子どもの学びの姿。どこで見とる、子どもの表情が確認できる場所。どのように見とる、文字・言語で記述。こんなことで、これを思いながら新堂中学校の道徳に参加したのですが、ちょっとこのことを置いときたい。それから、授業協議会、子どもの固有名詞と具体の事実で語りなさいというもので「〇〇さんはこう言いました」、「〇〇さんの目はこうでしたよ」というような言葉で語りなさいということをおっしゃって、それから、授業改善に向けて代案を示しなさい。授業を批判するのは評価するのはものすごく簡単なのですけれども、じゃあ私ならこうします。こういう方法がよかったのではという代案を示しなさい。そんなことを26日にお教えいただいたうえで、1月16日の新堂中学校の道徳に向かいました。いろいろなことをいっぱい教えていただいて、大変すばらしい講師を上手に草津市の先生方見つけてくださって、本当にこれは生きた力になるなと思いました。

それから、12月26日はプログラミングコンテストということで、優秀賞を受賞した4校の発表がございました。去年も聞かせていただいたのですけれども、やはり昨年より内容がより深まってきたな、すばらしいと感じさせていただきました。成果が徐々に見えつつあると思いました。

それから、1月10日、私も草津市のスペシャル授業に一度参加したい、参

加したいと思いつつ参加する機会がなくて、今回初めて参加させていただきました。山敷先生は草津市の方なのですが、「宇宙人はいるの？会えるの？～第2の地球を探して～」というテーマでお話してくださいました。大変スペシャルな授業でした。このスペシャルには私はいろいろな意味を感じましたけれども、私たち大人が聞いても難しいことがいっぱいでした。子どもたちの中には興味・関心の高い子もいました。余りよくわからずという子どもの姿も見られました。映像はすばらしい映像がたくさんあるのですが、具体物がなかったのです。草津小学校の廊下を見学で歩いているときに、もうその映像で見せてくれはった立体のそのものが飾ってあったのです。これがもし授業で出てきたら子どもたちはよりわかったのになというのがありました。内容的には小学生には難しかったのではないかなと私は思いました。興味のある子とない子の差、宇宙には夢やロマンはあるけれど、難しいスペシャル授業ではなかったのか、子どもに何が残るとよかったのか、というような印象が私には残りました。大変立派な先生に触れられ、自分たちの育った草津の先生というのはいいのですが、何をスペシャルとするのか。何を子どもに求めていくのかが私は見えませんでした。そこがちょっと残念でした。ただ、お話自体は興味のある、大人にとっては大変おもしろかったと思います。

それから、1月13日、私も成人式に参加させていただいて、昨年と今年で二度目、ほかの成人式にも何回か参加はしているのですけれども、大変整ったすばらしい式だったなという、実行委員の方の本当に最初会場のことでいろいろお考えいただいたということも聞いていましたけれども、本当に細やかな気配りと、本当に会場がシーンとなって映像・ビデオをピッと見てはる。ああ、と感動を受けてはるのがもう空気として伝わってくるような、本当にしっとりしたよい式だったなというふうに思いました。

それから、1月16日に、さっき言いました新堂中学校の道徳の授業研に参加しました。1年生と2年生の授業でした。どちらも半分ずつ見たいなと思いつつながら1年生の授業を見ていて、ちょっと抜けて作業している間にと思ったら、もう2年生にはとても入れなかったのです。いっぱい過ぎて。でも、その2年生の方はタブレットを使った授業だというので、どういうふうに使われるのかと思ってすき間から見たのですが、タブレットが見えなかったのです。聞いてみると、たくさんの参会者がタブレットやらスマホやらいっぱい持っているから、機器同士が干渉してしまってネットワークが使えなかったと授業研究会のときに聞きました。そのあと、草津小学校でのICTの見学会に行ったら、そこでは教育委員会の先生たちがたくさんおられましたので、もう徹底して機内モードにしてください、切ってくださいということをもう徹底して言われていました。聞くところによると、市内の至るところの小学校にも、使うなとい

う指令が出ていたというぐらい徹底されていた。だから、うまくいったのかは知りませんが、そこというのはICT教育をやっていくときにとても気を使わなければいけない。せつかく子どもたちが意欲的にやっているのに、そこでつぶれてしまう虚しさというか、惜しさを感じて思いました。私はちょっと機械音痴ですので、そういうことわからないのですけれども。授業もさっき言ったようなポイントで見せていただきました。人間として生きる喜び、偽りのバイオリンということでした。板書もしっかり計画され、KJ法というのは、付箋に子どもが言葉を書いて整理していくという方法ですけれども、そういう工夫もされておりました。自分への振り返りもしっかりされておりました。授業が週末の最後になったのですが、授業時間を延長されました。当然子どもはブーイングは出すのですけれども、一応終わりました。そのあと、授業研究会にもぜひ先生の願いや思いを聞きたい。こういう思いでこの授業を作ったんだ。ここでこういうものを作ったんだというのを聞きたいと思って行きましたら、グループ討議をされていました。テーブルが集まっていて、好きなところ座っていいというものでした。で、そこに新堂中学校の先生が一人ずつ入られてという授業研究会でした。どうしよう、こんなところに来てしまって良いのかな、帰ろうかなと思いつつ、入ってしまったので折角ですし参加させていただきました。でも、残念だったのは、授業者の先生は感想程度は述べられましたが、その授業に込めた思いや願いを私は深く聞くことができなくて、隣のグループにその授業者の先生がいらっしゃいましたけれども、それが残念でした。良かったことは、常盤小学校と笠縫東小学校の子どもたちが新堂中学校に行きますので、その前任の小学校での子どもの姿を見させていただく機会が昨年度ありましたから、その子どもたちが学んだことが中学校にちゃんと引き継がれているな。これすごく生きているなという姿を随所に見ることができました。タブレットにしても道德の授業にしてもそれが見ることができて、これが大事なんだなと。小学校で終わりではなくて、しっかり中学校につないでいるものがあるというすばらしさを見せてもらえたことが良かったです。それから、研究会では、生徒が自分事として考えるというテーマを持っておられました。道德の学年全体のテーマやと思います。やはり道德は教科になりました。資料道德でその出てきた人物に寄り添った感想を述べているだけではあかんわけですね。自分の生活、自分の心情に帰らないといけない。しかも、評価をしましようというふうに変ったときに、そういうテーマでやられていると聞いて、授業研究会の中でこのクラスはとても発表するんですよ。よくしてくれるんですということをおっしゃっていたのですけれども、あれだけ積極的に発言できる学級であるなら、もう一步踏み込んで自分事として自分の体験・経験を語れたんと違うのかなと。中学生ですのでね。しかももう1月ですので、1年間それを取

り組んでいるわけだから、もっと子どもの言葉でその壊れたバイオリンという、教材読んでおられないのでわかりませんが、登場人物の心情を乗り越えた自分の体験で語れる道徳になったら、突っ込んだらもっとやれたと思うのです。それは参加していた方々もおっしゃいました。他府県から来られている中学校の先生も同じことをおっしゃってはったのですが、そこが自分事としてというテーマにもう一步近づけない弱さを感じてしまって、いい授業されていたのだけど、やはりテーマに寄り添うことが残念やなと思いました。

それから、最後なのですが、16日の草津小学校のドローンを活用したプログラミングというのが見たかったので、たまたま一緒にあるということで行かせていただいて、そこで一番に思ったのは、ICTの授業見学者は男性が多いな、女性はいないなと、女性を探し歩いていたのですけれども、大変男の背広を着た方々にたくさん囲まれて、子どもたちは参観いただいております。5年生はP e p p e rを活用したプログラミング、ドローンを活用したプログラミング、道徳で自然環境を大切にしようとする心情を育てる道徳ということでのICTを生かしたということで見させていただきました。本当にプログラミングの方はすばらしくて、ちゃんと仕組みられて子どもが楽しそうにやっているのですね。なんせ楽しそうにやっているんです。それから、次々と改善して改善してよりよくしようとするのですね。プログラミングを変えることによってどんどん高まっていくのです。子どもは。それは、特定の子ではなくて、グループにいるみんながお互いにやりながらやってはる姿が大変すばらしいなと思いました。それに比して、道徳の授業は何なん、見せてもらって行って、ICTで心情を育てるというところがどうなのと思ったのですが、もうそんなことはできるわけではないので、ICTで育てることはできませんので、黒板に自分の考えが賛成やった、反対やったというグラフがポンポンときれいなカラーのグラフで前半と後半で変わったよというのが出ていたのですけれども、残念やったのは、黒板が白いチョーク1本やったのです。中学校でカラフルなすばらしい板書を見させてもらった後に、小学校でチョーク1本で白。子どもたちのテーブルにはタブレットあるですよ。何か残念な気がして、もう一つ残念やと思ったのは、そこに指導員の先生も居たのです。教育研究所から来られている先生だったのです。ということは、その先生が指導に入って授業構成、いろいろなことされているんですよ。そこも何か外から見ている者にしたら、チョーク1本の白い黒板は寂しいなという印象でした。また、2年生でもタブレットをやっている姿を見て、タブレットを動かしながら写真を撮って、上手に子どもが子どもに説明しているのですね。ここはこうやし、こうした方がいい、この順番にした方がいいという、本当に2年生であれだけタブレットを使ってやるんだというので、ちょっと感動させていただきました。ちょっと残念

ながら4年生は見せてもらえなかったのですけれども、本当にICTでこれだけということをおっしゃっている実践を見せていただく機会が、よかったなと思いました。ただ、システムの確実さ、授業がストップ、トラブルないようにするにはどうするのかということ。それからやはり、支援員の大事さ。補助してもらえる安心。やはり人の手は大事だなというのが印象に残りました。

松嶋委員

松嶋から報告いたします。ちょうど教育委員に就任いたしまして1カ月ほどが経ちましたが、その間に三つの行事に参加いたしました。先ほどからも御説明があったような1月10日の常盤小学校での京都大学の山敷教授の授業を拝見いたしまして、私が想像していたよりは多くの小学生がノートにすごいメモをとって熱心に聞いている様子で、私の想像以上には多くの人数の子が真剣に聞いていたかなという印象です。そのときに、やはり1時間以上の講義の時間がありましたので、その時間を一定集中して聞きながらメモをとれているという、私はその集中力のところ、姿勢に驚いたかなという次第です。

その講義が終わった後、若干その先生も囲んで話をするという機会があったのですけれども、そのときに聞けなかった内容というのをちょっと課の方を経由してちょっとメールで質問を、その山敷教授にさせていただいたのですが、そのときのちょっと感想といたしまして、山敷先生からも小学生の向学心に驚きましたと。京都の小学校の方でも同じような感星についての講義をするようなイベントがあったということだったので、そのときよりも今回は特にノートをとって熱心にメモをとっている小学生が多かったというふうに返事をいただきまして、宇宙について自分で考えようとしている。そして、自分の意見を考えて意見をしてくれていたというのが非常にすごく向学心に長けているなと思った点だということで、非常にうれしい感想もいただいていたという次第でございます。

次になのですが、私、1月10日の次に1月16日の午前中、新堂中学校の道徳教育の授業、こちらを拝見いたしました。私は中学校2年生の教室をずっと拝見させていただいたのですが、まずそもそも文科省も言っているように、道徳教育のそもそもの目的が、命を大切にすることや他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識を身につけることとなっておりますので、その点で言いますと、今回拝見した授業では、各生徒がその題材となった教材の登場人物、そういった登場人物の心情を考えて自分で考えて意見を出している姿というのを見ることができましたので、道徳教育としてちゃんと生徒のその道徳教育に対する姿勢にはすごい感心いたしました。授業の進行についてちょっと一つ思った点としては、先生の方がゴールを決めてそこにちょっと誘導をしようとしているというような姿勢を私は感じた点がありまして、もちろんカリキュラム

があって、こういうことを学んでほしいというのはあるとは思うのですけれども、生徒が自分で考えて意見を出したことに対する先生の返事が「うーん」という言葉だけやったのですね。ではなくて、生徒に考えさせてそこで意見をもらったのであれば、まずその意見に対してそういう肯定の意見を出した上で、そのほかにもこういうことが言えるのではないのかなというように形で議論を進めていただきたかったかなというのが、ちょっと一つ残念な点だったかと思えます。ICT機器もそのときに利用されていたのですけれども、結局その使った場面としては、その登場人物の心境に共感ができたかどうかという程度を、どの程度共感ができたかというところを張って、それを集計しようとしたというところだけでしか使えてなかったのも、それ以外のところではやはり紙に自分の考えた意見を書いて、それを結局あとで先生に集計するという形をとってらっしゃったので、そこも今後そのタブレット自体の更新もあるということなので、できればもうそういった感想等もタブレットの方に書き込んで、そこで集計も先生が自動で行って、そういった事前のその例えばプリントを用意するにもコピーする時間がかかりますし、その集計をするにも紙を集めて1枚ずつ先生が見ないといけないといった手間を、なるべくであればそういった機器を使って時間をなるべく削減して、先生の負担の軽減にもつながっていただけたいのではないかなと思いました。あとは、生徒が感情移入しやすいような道德教育のアイデア、そういったアイデアをもっと今現状、どういう体制でされているのかというのがまだ余り見えない点があるのですけれども、多分いろいろなアイデアがもっと隠れたものがあると思うので、そういったものを先生側の方からも積極的に共有して、よい教材をどんどん使っていけるようなというような仕組みがどんどん整っていけば、よりよい教育になるのではないかと思った次第です。

あと、その日の午後に、草津小学校のICT教育のセミナー、こちらにも私も参加いたしました。私が今回その各学年の授業を見て思ったのが、まずやはり各学年ごとにその授業の目的というのを明確に分けて、どういうICT機器をどのように使うかというのを段階的に学ばせようとしているという、目的が学年ごとに異なってちゃんと教育をしているというのをまず感じました。低学年の方では、タブレットを使って、ある「遊び」について写真を撮って、その「遊び」の遊び方についてほかの子に教えるというのを、写真を撮って字を書いてという形で、プレゼンテーションをされていました。どうやったらよりわかりやすく伝えられるかというような授業だったのですけれども、この点で言いますと、タブレットで何ができるか「写真が撮れる」「字を書ける」それをどうやってやるかというような点で、ICT機器の操作自体になれるということを目的にしているのかなと感じました。あとは、ほかの学年でも図形の展開

図をICT機器を使って、図形の展開図ですとか、これを組み立てたらどういう図形になるのかは、なかなか頭で想像しづらい子もいると思いますので、そういった部分はそのツールを使って画面に出して、実際にリアルタイムで組み立てられていく姿というのを目で見て確認して想像できるようにするという形で、どういう用途で使えるのかというのを目的に教育をしているというのが、その学年では見られました。あとは、プログラミングの教育、P e p p e rとドローンと2種類ありましたが、私もHTMLであったりP y t h o n (パイソン) であったり、いろいろな現行のプログラミングを今現在でもしていますけれども、やはりどのプログラミングの言語に関しても、今回見せていただいたような本当に基礎になるところというのをちゃんと教育されていたと思いますので、どの言語でもやはり機械に指示をする上で全て、途中でもちろん分岐の処理というのが入ることもありますけど、基本的にはもう直線的にそのプログラミングしたとおりにしか機械は動きませんので、その部分と後はエラーが起こったときにどういうふうに対処していくのかというところ、そういった不具合の修正のところも自分で考えてするというふうに教育をされていたので、教育の方法自体はすごくよかったのではないかなと思っています。あとは、例えば何か不具合が起こったときは、このように対処をしてくださいですとか、ある程度そこも何かあったらすぐにその指導員の方が駆けつけてという形ではなくて、不具合が起こったときも何で不具合が起こったのかというのを、ある程度手順書みたいなものを生徒にも理解してもらうようにして、何が原因でこうなってしまったのかというのを考えながら改善に取り組むようなこともできると、なお良くなっていくのかなとも思いました。あとは、タブレットのその端末自体の更新も控えているということなので、あとはそのネットワークの環境自体の整備もあると思いますので、そういったものの更新を通してよりいろいろな使い方が期待できると思いますので、その部分に関してはもっと私もどんどん意見を伝えていけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

川那邊教育長

ありがとうございます。ネットの通信環境は、今後はどうなりますか。もし更新をしたら改善されるのですか。

学校政策推進課長

学校政策推進課、江竜でございます。

ネットの環境につきましては、今、文科省の言っていますG I G Aスクール構想の実現を利用しまして、校内ネットワークの張替を来年度の夏にできるように今動いているところです。現在の線が1ギガベースの線なのですが、20校とも10ギガベースの線に張りかえをしようと考えております。あと、



学校から外に出ている教育ネットワークにつきましても、来年の9月に更新の時期を迎えていますので、今よりもより環境の通信がスムーズに行えるような、そういうものに更新していけるように現在、いろいろ関係部局と調整しているところです。

川那邊教育長

当時のそのよかった環境がやはり時代とともに追いつかなくなってきているということですね。ありがとうございます。

もう一つ、講師がすごくよかったというふうにおっしゃっていましたが、一言、今年の田村先生のことやと思うのですが、その前には石川先生もお呼びをしたり、どういうふうにしてそういう先生を選ばれたのかということ。

学校教育課参事

失礼します。学校教育課、作田です。本年度の田村先生につきましては、夏休みにたまたま私の方で自己研修に行かせていただいたときに、大変わかりやすいお話をされたということで、もうすぐその場をお願いをしました。ぜひ草津にということでお願いをしましたところ、快くお引き受けいただきまして、特に草津の授業についてはICTの活用を基本としながらも、授業のベースのところで先ほど委員様から御指摘がありました教師のコーディネート力であるとか、授業の中での教師のその授業、子どもとの関わりの意見の拾い方であるとか、そのつなげ方とか、そういった部分については今後焦点を当ててみんなで研修していかなければいけないなというふうに捉えておりますので、例えば昨年度の21世紀型学力をされています石川一郎先生、そして今年は田村先生で、そういった著名な方々の御意見を生で聞く機会がこれから必要かなと。特に若い先生たちは非常によかったという感想をいただいておりますので、私も含めて勉強を続けていきたいと思っております。

川那邊教育長

ありがとうございました。ほかの方はよろしいですか。今回も大変貴重な御意見等をいただきましたので、またそれぞれの課・所属におきまして、検討も重ねていただければと思っております。

それでは、教育長報告につきましては、以上で終わらせていただきます。

—————日程第4—————

川那邊教育長

次に、日程第4、付議事項に移ります。

議第1号の臨時代理の承認を求めることについてでございますが、この議案は人事案件でありますことから、会議を公開しないこととすべきであると思っております。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項では、教育委

員会の会議は公開する。ただし、人事に関する事件、その他の事件について、教育長または委員の発議により出席者の3分の2以上の多数で議決したときは、これを公開しないことができるとなっておりますので、この規定に基づき、お諮りしたいと思います。

当議案及び議事を公開しないこととするについて、御異議はございませんか。

各委員

— 異議なし —

川那邊教育長

異議なしと認めます。よって、当議案及び議事は、公開しないことといたします。したがって、議第1号の審議は、報告事項の終了後に行うことといたします。

—————日程第5—————

川那邊教育長

次に、日程第5、報告事項に入ります。

事務局より報告願います。

スポーツ保健課長

スポーツ保健課、織田の方から、インフルエンザの流行による幼・小・中学校の臨時休業の状況について説明をさせていただきます。

本日、お手元の方には、右上の方に1月28日現在と書いたものをお配りしておりますので、そちらの方を御覧ください。インフルエンザの流行によります幼・小・中の臨時休業の状況でございます。1月28日現在のもので、上段の方が閉鎖された学級数、下段の方がインフルエンザの罹患者数となっております。また、右手の方が令和元年度の状況でございます。1月の欄を御覧いただきますと、学級閉鎖の学級が31学級、内訳として幼稚園がゼロ、小学校が25、中学校が6となっております。また、下段の方が罹患者数で、御覧のような状況でございます。それらを図示したものが下のグラフということでございます。昨年度から見ると半減のような状況に見えますが、昨年が少し多かったので、平年並みというような状況でございます。県内には12月12日からインフルエンザの注意報が発令されておまして、また昨今新型のコロナウイルスということが報道等でも言われております。適切な感染症対策について児童生徒の方に指導するとともに、国・県から適切な情報を入手して、即座に対応してまいりたいと考えております。

川那邊教育長

ただいまの報告事項につきまして、御質問等ございませんか。

稲垣委員 重篤な子どもさんは出ておりませんか。他市では、脳症で失明という話も聞いたのですけれども、そういうことはないですか。

スポーツ保健課長 本市の中では、そのような状況の報告はございません。

稲垣委員 ありがとうございます。

檀原委員 学校の先生の方とかは、何か聞いておられますか。

スポーツ保健課長 当課の方に特にとりたてて多く発生しているという状況の報告はございません。

川那邊教育長 また、教室等での対応がいろいろ大事になってきますので、よろしく願います。ほかよろしいですね。

それでは、報告事項につきましては以上で終わらせていただきます。

続きまして、先ほど非公開といたしました議案の審議に移ります。

————— 非公開 —————

川那邊教育長 以上をもちまして、本日の議事は終了となりますが、ほかにございませんか。よろしいですか。

それでは、これをもちまして、1月定例会を終わらせていただきます。

次回は、2月25日、火曜日、午前10時から定例会を開催する予定ですので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

閉会 午後 3時55分